第132号
THE KANSAI UNIVERSITY NEWS
関西大学通信
関西大学広報委員会
大阪府吹田市山手町3丁目

関西大学創立100周年をひかえて

新たな理想をめざして

——学長　大西　昭男

おそらくは泉下にあって母校の発展を見守って来られたであろう校祖、校友たちを含めて、かつて関西大学に身を置いた人たち十七万余名の「人の親和」の環が今あらためてしっかりと結び合わされて、その日を迎えようとしている。それを思う時、いま関西大学に身を置くものの一人として私は文字通りに身の引きしまる思いがする。

いま、われらの関西大学は一つの大きな節目を迎えようとしている。学歌にも歌い継がれて来た「長き歴史」が、今こそ開学百年という動かしがたい事実として刻みこまれようとしている。客観的に見ても、それは日本近代史の一翼を形成するに足りる事実である。

三年後の昭和六十一年十一月四日その日、関西大学は、一世紀の歴史を印す創立一〇〇周年という意義ある節目を迎えます。

一〇〇年と一口にいっても、その年輪の一つ一つに刻み込まれた歴史と伝統は、重く深いものがあります。「徒らに百歳生けらんは、恨むべき日月なり。悲しむべき形骸なり」（道元禅師）という古人の言葉が大きな響きをもって胸に迫ってきます。関西大学が今日みられるような私学の雄としての地歩を確立し得たのは、徒らに一〇〇年生きたからではありません。創立者たちの高邁な識見と献身的な情熱によって築かれた深遠な精神が受け継がれ、一日一日、関係者一人ひとりの熱意と努力の積み重ねによって一〇〇年の歴史が形成されたのであります。

これら記念事業所要資金は総額三十二億円となるが、そのうち(1)、(2)、(3)の各事業（二十九億五千万円）は、学内外各方面に資金援助を依頼し、実施しようとするものである。

（創立一〇〇周年記念事業事務局）

創立100周年記念事業計画

関西大学創立一〇〇周年を記念して計画された事業の骨子は、大略次のとおりである。

(1)記念会館（仮称）の建設（十七億円）—教育・文化的事業、国際交流、学会開催など多目的に使用できる施設の建設。

(2)セミナー・ハウスの建設（四億五千万円）—教室外での教育研究の場としての施設の建設。

(3)研究・教育振興基金の設定（八億円）—①国際交流基金、②学術研究助成基金、③教育助成基金を設け、基金の果実で各事業の実施。

(4)記念刊行物の出版と「内藤文庫」の設置等（二億円）—関西大学一〇〇年史その他の出版および内藤湖南・伯健旧蔵の典籍による「内藤文庫」の設置など。

(5)記念行事・記念式典の挙行（五千万円）。

先覚の偉業を継承して

——理事長　久井　忠雄

「権利の何たるかを日本国民に知らしめたい」と念願し献身したボアソナード博士の教えを受けた人たちが、時の大阪控訴院長（後の大審院長）児島惟謙の励ましによって明治十九年、「関西法律学校」を大阪市西区京町堀の願宗寺に開いた時、来たり学ぼうとする人の数は募集人員を遙かに超えたと記録されている。教えようとする志と学ぼうとする志とが綿然と火花を発したとも言うべきか。やがて大学へと発展して今日に至る。

経済大国と呼ばれるまでに復興した日本のいま置かれている立場はきびしい。海図なき航路に既に乗り出している日本の針路をどこに取るべきか。大学に課せられた使命はまことに重いと言わねばなるまい。われらの関西大学は何を為すべきか。

一〇〇周年という大きな節目を迎えようとして、われら関西大学に大いなる期待をかける人たちは十七万校友にはとどまらない。社会の中の大学として、また国際社会にあっての大学として、負うべき責務は重く且つきびしい。一〇〇周年に向かって一歩一歩を踏みしめながら、一〇〇周年を超えて更に進むべき「久遠の理想」を目ざして、関西大学にかつて身を置いたもの、そして今身を置くものが心を一つにして、限りない前進を続けて行きたいと私は心から念願する。

この記念事業の計画は、前述の一〇〇周年の意義をふまえ、関西大学の教育の質的向上と研究水準の高揚、国際化の伸展を図り、個性ある有為な人材の養成をめざして構想されたものであります。このことは、とりもなおさず大学の社会的評価を一段と高め、社会に貢献する目標にかなうものであります。記念事業が単なる「記念」の中に埋没することなく、本学の新たな発展の跳躍台となることを願う次第であります。

昨年七月、理事会の諮問機関として発足した創立一〇〇周年記念事業計画委員会では、一年余にわたる慎重な討議、検討の末、過ぐる十月十四日、記念事業計画等の答申がまとめられました。これを受けた理事会では、関係機関の議を経て、別項に掲げられているような記念事業の大要とその実施に必要な募金計画を確定しました。

われの双肩に重くのしかかっていることを自覚しなければなりません。

人間の肉体は有限であります。しかし、関西大学の生命は、永遠の未来に生きる無限の可能性を秘めております。無限の途上にある今日の関西大学の生命は、先人たちの有限なる肉体から生まれた努力の結晶として息づいているのであります。このことに思いをいたし、未来永劫に開ける関西大学の新しい基盤を築くことが、いま教育と経営にあたる者の責務として、われ

学費改定行わず

大学院生、学部第一部及び第二部学生の皆さんへ

昭和六十年度大学院新入生・昭和五十九年度学部第一部及び第二部新入生に対する学費（入学金、授業料、維持拡充資金及び実験実習料）については、改定を行わない。

昭和五十八年十月三十一日

学校法人　関西大学

本号の内容

▼1面　関西大学創立一〇〇周年をひかえて　学費改定行わず　千里眼▼2面　人事異動　大学院部長紹介　経商合同ゼミナール大会　文学部学術講演会　工学部特別講演会　工技研特別講演会　視聴覚教室主催展示会　国家試験の合格者決まる　視聴覚教室主催英語講演会　経済資料協議会西部会　黒岩山の家　学生生活実態調査に協力を　学生諸団体の行事予定　『関大通信速報』第146、147、148、149、150号を発行　昭和59年度入学願書を発売▼3面　総合コース「部落解放論」後期特別講座　レジュメ▼4・5面　学園祭　スポーツ週間の結果　大学院祭▼6面　人権問題委員会発足す　世界人権宣言35周年に当たって▼7面　遼寧大学に学ぶ——来る人往く人▼8面　違法・迷惑駐車の実状　図書館だより　世界の大学　新刊紹介　編集後記

千里眼

秋の陽は釣瓶落としとか、五時を過ぎると日はとっぷりと暮れてしまう。暗さが増すにつれて、外気は冷え込み、室内にいても肌寒さについジャンパーを羽織ったり、ストーブのスイッチに手が伸びたりする。そんな夜は熱いココアでも啜って、好きな本を膝に一人でじっとこもっていたくなる▼好きな本といえば、ここ数年長編ファンタジーが静かに読者を広げているそうである。『星の王子』や『指輪物語』などは一時ブームにもなったのでご存知の方もあろう。創作の発表は多くはないが途切れず、第二次大戦後の英語圏に限っても、C・S・ルイスのナルニア国、U・L・グウィンのゲド戦記、L・アレグザンダーのプリディン物語など大作が出ている。非現実の世界での知的散歩、肩の凝らぬ架空物語といってしまえばそれまでのことであるが、何かしら人を誘い込んで離さぬ魅力を備えている▼作品はいずれも作家が長年をかけて彫琢したものである。自らの心の内で造り上げた新世界を、読み手の前に展げて、その世界を次々と案内してくれる。見知らぬ土地への旅行にも似たときめきと楽しさに読者は夢中になる。現実の世界は全く消滅してしまうのではない。作者が自らの世界を展げたとき、どこかで現実との繋がりをつけるのが一つの約束事となっているようである▼近代的自我の確立により、個人の価値観で統一された心象世界が多くの人々の心に共鳴作用を与えるからだ。現実社会の変革への絶望と結びついた、個の挫折を示す現象だ。ファンタジーの流行への論評は多い。一冊お読みになってはいかが。（K・K）

人事異動

十一月一日付で新任職者が次のとおり発令された。

▽大学院△
部長（経済学部教授）澤田　壽貢
文学研究科長（教授）木下　正俊
▽就職主事△
同（法学部教授）澤田　壽貢
同（文学部教授）豊永　彰
同（経済学部教授）山本　繁穂
同（商学部教授）中辻　卯一
同（社会学部教授）宮下　三郎
同（工学部教授）松村　嘉高

キャンパス情報

黒菱山の家で滑ろう！

年末年始の利用申し込み　**11月25日から受け付け中**

白鳥連峰の八方尾根にある黒菱山の家

わが国屈指のスキー場

北アルプスの二股・白馬連峰のふもと八方尾根では、すでに降雪がちらつきその到来を告げている。この八方尾根にある本学の「黒菱山の家」のゲレンデがあり、雪質、変化に富んだコースを有し、わが国屈指のスキー場として名高い。

東井正美・大学院部長

本学の「黒菱山の家」は、この八方尾根の中心部に位置する標高一、八〇〇メートルにあり、平（標高一、八〇〇米）にあり、そこには本学の「黒菱山の家」のほか、他の大学や高校のヒュッテもあり、ちょっとした一学校村ともいうべき雰囲気である。

さて、この「黒菱山の家」の利用だが、例年十二月一日から翌年三月三十一日までの間、長期（一週間）、短期（三日間）の二種類に分けて利用者を募集している。

本学の学生諸君はもちろんのこと、教授諸氏、職員諸氏、さらにはOB諸氏にも広く利用されており、この冬休みにも多くの学生が利用の申し込みをしているようである。

また、利用者の便宜をはかるため、利用申込書の受付けを次のとおり行なう。

◇受付期間◇
十一月二十九日（火）午後一時から、第一学生会館A・B教室において、視聴覚室主催で「黒菱山の家」利用者説明会を開催する。

◇受付時間◇
十一月三十日（水）午後一時から、第一学生会館A・B教室において、視聴覚室主催で「黒菱山の家」利用者説明会を開催する。

◇受付場所◇
第一学生会館A・B教室

◇受付方法◇
受付場所に備えつけの「黒菱山の家」利用申込書に必要事項を記入のうえ、受付場所に提出する。

◇受付人数◇
一日につき、一〇〇名まで。

◇受付順序◇
受付順序は、申込書の提出順とする。

◇その他◇
受付期間中に、定員に達した場合は、受付を締め切る。

経商合同ゼミナール大会を開催

十二月十四（月）・十五（火）の両日、経商両学部で経商合同ゼミナール大会が開催される。

大会初日は午後一時から、経商両学部長による開会の挨拶で始まった「経済学におけるマルクス、シュンペーター、ケインズの生産あるいは投資自律について、経済学の新たな展望が開かれるよう、真剣な討論を期待すると激励した。商学部長は、大学教育においてはゼミナール活動が中心であり、学生の自主性による本大会は意義深いものであること、また個別報告と部門別討論会、復習ゼミによる討論が少ないとを指摘した。

その後基調講演に移り、中辻卯一商学部教授が、「今、メガトレンドを通せるか？」と題する講演を行った。その中では、これからの情報社会が迎える様々な問題が具体的事例をおりまぜながら語られ、情報は現実の裏付けにすぎない点が強調された。十五日は部門別討論会が行われ、会場で二十会が、十月六日（金）年前十時から大教室で開催される。

視聴覚教室主催の展示会

視聴覚教室では、ドイツ語学習の発展と国際的な文化関方と目的として、ドイツ文化センターの協力のもと十二月九日（水）から十二月十三日（火）まで、第一学生会館ロビーにおいて展示会が開催される。

展示テーマは「現代化の前向き三十年（一九三〇年～敗戦～一九六〇年代～世界大戦）」で、次の日程で展示が行われている。

①十二月九日（水）～十二月十六日（水）
「第一次世界大戦の勃発」
②十二月十九日（水）～十二月二十日（火）
「ルール地方占領（一九二三～二五年）」
③十二月二十四日（水）～一月七日（水）
「一九三〇年～敗戦の一九二〇年代と世界大戦」
④十二月十四日（水）～十二月十七日（水）
「ワイマール共和国の一九二〇年代」
⑤十二月十八日（水）～十二月二十日（水）
「ナチスの政権奪取」
⑥十二月二十一日（水）～一月十九日（水）
「ドイツ連邦共和国（一九四五～一九九〇年）」
⑦一月九日（月）～一月十八日（水）
「ベルリンの壁の開放」

視聴覚教室主催の英語講演会

十二月十九日（火）午後一時から、第一学生会館A・B教室において、視聴覚室主催で「最近話題となっているテレビ・ラジオ・ニュースについて」と題して講演会を開催する。

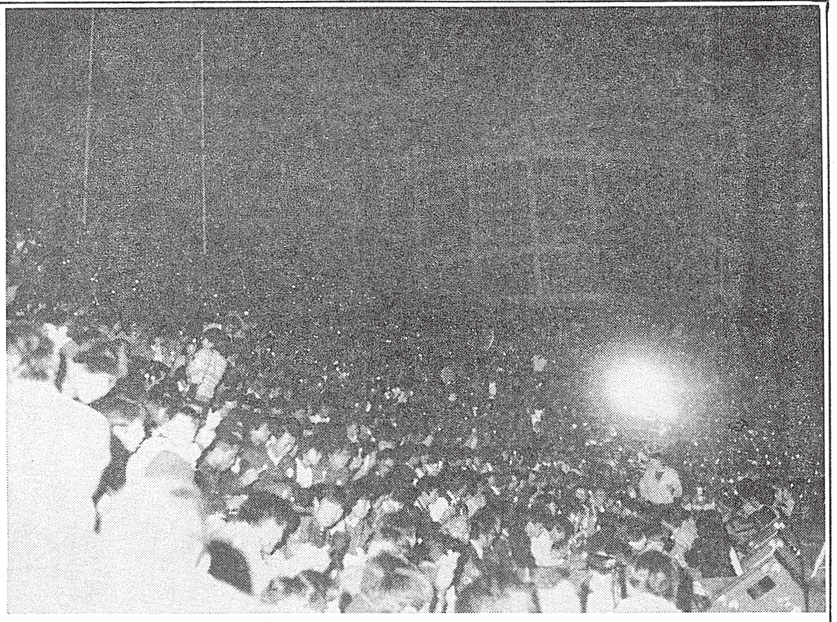
講師は、Mrs C.A.Watanabe氏による「Japanese College Life」と題して講演される。

学生諸団体の行事予定

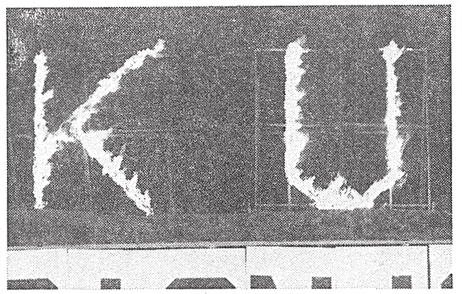
【第二部】▼体育会部＝十一日（日）十六時～二十一時、第二十五回定期演奏会（大阪厚生年金会館）▼経商学部＝十二日（月）～十四日（水）、昭和五十九年度入学試験（第二部）▼法学部＝十二日（月）～十六日（金）、昭和五十九年度入学試験（第二部）▼文学部＝十二日（月）～十六日（金）、昭和五十九年度入学試験（第二部）▼理工学部＝十二日（月）～十六日（金）、昭和五十九年度入学試験（第二部）▼社会学部＝十二日（月）～十六日（金）、昭和五十九年度入学試験（第二部）▼工学部＝十二日（月）～十六日（金）、昭和五十九年度入学試験（第二部）▼商学部＝十二日（月）～十六日（金）、昭和五十九年度入学試験（第二部）▼法学部＝十三日（火）、第二十回定期演奏会（毎日ホール）▼経商学部＝十三日（火）、第二十回定期演奏会（毎日ホール）▼文学部＝十三日（火）、第二十回定期演奏会（毎日ホール）▼理工学部＝十三日（火）、第二十回定期演奏会（毎日ホール）▼社会学部＝十三日（火）、第二十回定期演奏会（毎日ホール）▼商

盛大に学園祭開催

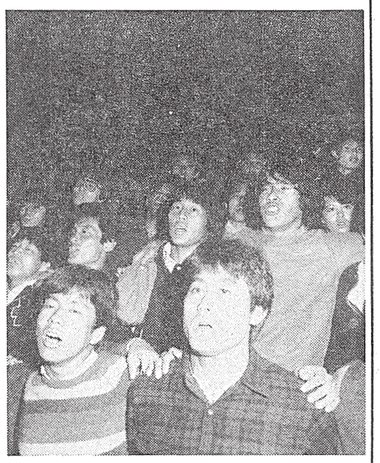
PASSION'83〈ギャラリーからステージへ〉



後夜祭でクライマックスに!!



夜空にくっきり「KU」の文字



全員が肩を組んで歌う関大逍遥歌

熱い炎よ燃えろ!!

芸術の秋、スポーツの秋。それに伴うかのように、本年もまた「十月三日(水)から六日(日)まで、本々の本拠に秋の盛宴う千里山キャンパスにおいて、学園祭が開催された。

今年学園祭実行委員会が結成され、その下で学園祭が企画・開催されるのは、昭和五十三年以来数えて第六回目を迎える。

この積み重ねと長寿から、より充実した学園祭を実現するために、何よりもその母体である学園祭実行委員会の果たす役割が重要であるとの点から、学生諸君は努力を結集したようであるが、これを支える教学部・サークルの準備期間や開催時期の十月上旬には例年とほぼ同時期の十月上旬に、全学学園祭実行委員会が結成された。

学園祭を、①自主的教育活動の場②文化創造の場③学友交流の場と位置付けるとともに、テーマは「PASSION'83〈ギャラリーからステージへ〉」と設定された。内容的には従来の「学部合同祭」的色彩をなくし、真の「統一学園祭」を確立し、現実面でも本来の姿である学生の自主的活動を中心とする学園祭の開催を目指して、十一月一日までに企画の受付・調整・決定していた諸準備が精力的に進められていった。この準備作業の中で、限られた物理的条件（時間、空間、費用など）の下で着想をどこまで生かせるか、つまり調整の作業に実行委員会は苦労したという。

パンフレットの作成についても知られる学園祭活動である。印刷物を作る場合には、原稿をそろえて経て納品するのが一般的であるが、本学の学園祭のパンフレットの作成の場合は、その編集体裁とは異なり、実行委員会の努力により、敏速な作業をもって印刷所へ出向いて行うなど苦労の連続であった。

本年の最大の悩みのタネは後夜祭をどこで開催するかということであった。後夜祭は学園祭の締めくくりとして開催されるのが「祭」の約一カ月間にもなることから諸準備が遅れ、パンフレットの原稿が全部出そろうのは「祭」の約二週間前となり、それからの約十日間の担当者の苦労はほとんどが印刷所へ出向いて行うなど苦労の連続であ

人権問題委員会発足す

昭和五十八年十月一日付で「人権問題委員会」が発足した。本委員会が設置されるに至った経緯について、大学当局より以下のような説明があった。

昭和五十四年一月、学長より当時の部落問題委員会にたいし、「民族差別、女性差別、障害者差別など今日的な問題に関する本学における教育・研究の総合的見地からの見直しについて」検討が依頼されて以来、ちょうど四年半以上の月日が経過した。この間、関係諸機関での審議等を重ね、その結果をとりまとめるべく、昨年一月一日より部落問題委員会を発展的に解消して新しく「人権問題委員会」が発足することとなった。

わが国の憲法、加えて建物の基本的人権の尊重とその保障をうたった「国際人権規約」(A規約、B規約)には批准もしており、また国連の「人種差別撤廃条約」、民族差別や女性差別など人権侵害がないよう抑圧の法例がみられ、基本的人権が尊重されそれが最大限に保障されているとはいかないが、残念ながらわが国文化的環境にあるとは言えない現状である。

新委員会は部落問題委員会のこれまでの成果をふまえながら、さらに民族問題、女性問題をも含めた人権問題全般にわたる総合的な見地から諸般の問題に関する本学における教育・研究の総合的推進方策を図るとともに、広く学内外の人権問題に関する諸般の情報・関係諸機関での審議等の窓口となるなどの役割を果たすことをめざしている。

このような「人権問題委員会」はわれわれ学部からの二名、各学部より一名の選出委員と学部長会を発展的に解消して新しく「人権問題委員会」が発足することとなった。

新委員会はまた学園の機関紙である「関西大学時報」にも毎月一回の人権問題に関する啓発記事を掲載するなど、広く学内外の人権問題に関する啓発活動を行なうことになっている。

この委員会が発足されてから、今年が三年目になる。今日、一方で戦争への脅威が一段と高くなってきている。国際緊張という言葉がやたらにつかわれ、ソヴェトを悪者として悪宣伝をし、これを口実に軍事力を増強してそのために核兵器の開発がますます進められている。

この軍事力の増強のために、今年が三年目になる。今日、一方で戦争への脅威が一段と高くなってきている。国際緊張という言葉がやたらにつかわれ、ソヴェトを悪者として悪宣伝をし、これを口実に軍事力を増強してそのために核兵器の開発がますます進められている。

また中曽根首相は、外務省文学教育の一つです。日本では基礎的科目の現状、新しい文学の発展の趨勢など、こういう面で講義を行われるといいですね。さらに、日本研究所の基礎科目は日本語学と日本歴史、それが増えるといいですね。さらに、日本研究所の基礎科目は日本語学と日本歴史、それが増えるといいですね。さらに、日本研究所の基礎科目は日本語学と日本歴史、それが増えるといいですね。

国内における差別の構造と密接に絡みついて引き出される偏見であるから、戦争に対しても、まず国内における差別の根絶、つまり基本的人権を確立してはじめて、国際平和の基礎が築かれるのである。

三、大学の使命をあらためて考える

思えば、私たち戦前の日本の教育をうけてきた者のほとんどは、人権について教育をうけることはなかった。いや反対に差別意識を植えつけられてきたのである。私は、戦後の新憲法に感激し、この世界人権宣言と日本国憲法の精神に基づいて、国民の権利と義務の章の条項を通じて、はじめて目が開かれ、部落解放運動にかかわって人間であることの意味を教えられたのである。われわれは大学において生涯一人一人に人権の思想の確立に向けての教育と研究を、と願うすべきである。(文学部教授)

世界人権宣言35周年に当たって

部落問題研究室室長　鈴木　祥蔵

一、戦争と人権

一九四五(昭和二十年六月二十六日、サンフランシスコにおいて採択された国際連合憲章には、第二次世界大戦後の二度と再びこのような戦争を繰返さないために、世界中の良心を結集しようと願う次のようなことの基本的な考えが示されている。

「われら連合国の人民は、われらの一生のうちに二度まで言語に絶する悲哀を人類にもたらした戦争の惨害から将来の世代を救い、基本的人権と人間の尊厳及び価値と男女及び大小各国の同権と関する信念をあらためて確認し、国際協力の手段を通じて経済的及び社会的発展を促進するために、一般的国際機構を設立することを決意した。」

第二次世界大戦では、死者が一、一般市民の死者が六千万人、一九四五年六月二十六日、サンフランシスコにおいて採択された国際連合憲章には、第二次世界大戦後の二度と再びこのような戦争を繰返さないために、世界中の良心を結集しようと願う次のようなことの基本的な考えが示されている。

「われら連合国の人民は、われらの一生のうちに二度まで言語に絶する悲哀を人類にもたらした戦争の惨害から将来の世代を救い、基本的人権と人間の尊厳及び価値と男女及び大小各国の同権と関する信念をあらためて確認し、国際協力の手段を通じて経済的及び社会的発展を促進するために、一般的国際機構を設立することを決意した。」

第二次世界大戦では、死者が一、一般市民の死者が六千万人に及び、負傷者一、二五〇万人、一般市民の死者が六千万人に及び、負傷者一、二五〇万人、一般市民の死者が六千万人に及び、負傷者一、二五〇万人

学生・学徒自転車の実状

学生部長代理　平根喜久

昭和五十二年度、自動車通学の届出を学生から受けた時、学生課の窓口は驚きの声であふれました。

「えっ、自動車通学？」

「ウソでしょ！」

「ホンマかいな！」

学生諸君の自動車通学に対する驚きの声は、当時の学生諸君の自動車通学に対する考え方を如実に物語っていました。

それから六年、学生諸君の自動車通学に対する考え方は、大きく変わりました。

本年度の自動車通学届出数は、一五〇〇台といわれる自動車が、大学構内や周辺住宅街の路上に溢れていたのが、今では、その三〇倍の自動車とその三〇倍の自動車通学者が、大学周辺の住宅街に駐車しているのです。

しかし、この三〇倍の自動車とその自動車の激増に対応した駐車場の方策が大きな問題として増えてきたバイクの駐車場の激少